

政党内閣の成立と展開

1 寺内正毅 内閣 1916.10~18.9 超然内閣

2 諸物価(特に米価)の高騰 → 庶民の生活難

{ 供給の不足...3 地主・大商人の買い占め・売り惜しみ
←シベリア出兵の軍需も予想
需要の増大...都市人口・労働者人口(非農業人口)の急増 ←資本主義の発達
1918年夏、4 富山県魚津町などで騒動(「5 越中女房一揆」)

→6 米騒動 ...7 0万人以上 米商人や地主を襲撃 →軍隊でようやく鎮圧 →内閣総辞職

7 原敬 1918.9~21.10 「8 平民宰相」...華族でも藩閥でもない衆議院議員 『原敬日記』

9 初の本格的政党内閣...10 陸相・海相・外相以外はすべて政党(立憲政友会)員

(a) 11 積極政策...公共事業や教育福祉を拡大 財政支出が必要

<例>12 鉄道網の拡張...13 鉄道院を鉄道省へ格上げ(1920)

海軍の軍備拡張...「14 八八艦隊(戦艦8巡洋艦8の建造)」の推進

高等教育拡充...15 大学令(公立・私立大学の認可)、16 高等学校令

(d) 17 選挙法改正(1919)...18 納税資格を3円に(5.5%)

19 小選挙区制の採用(大政党有利)

(c) 社会主義運動や普通選挙運動には否定的

野党の普通選挙案 →拒否、解散総選挙 →政友会の圧勝

(d) その他 21 パリ講和会議(1919)、三・一運動(1919)、22 国際連盟加盟(1920)

恐慌(1920)、東京市疑獄(汚職)事件など

→1921. 暗殺(東京駅)

与党 20 政友会の
党勢拡張

23 高橋是清 1921.11~22.6 24 立憲政友会

政友会総裁(←原内閣大蔵大臣←日本銀行総裁) 25 ワシントン会議(1921) (→近代29)

26 加藤友三郎 1922.6~23.8 官僚・貴族院中心だが、27 政友会が支持

海軍天将(←天隈内閣~高橋内閣の海軍大臣) 28 ワシントン会議の首席全権

軍縮・シベリア撤兵を実施 陪審法(1923) 首相病死で総辞職(1923.8/24)

29 関東大震災(1923.9/1)

30 山本権兵衛(II) 1923.9~23.12 海軍・薩摩

震災翌日(9/2)組閣 →混乱処理(戒厳令、31 支払猶予令など)

1923.12 32 虎ノ門事件...無政府主義者33 難波大助、34 摂政宮裕仁親王(のち昭和天皇)を狙撃

→引責で総辞職

35 **清浦奎吾**

1924.1~24.6 官僚(山県有朋系)、枢密院議長

36 貴族院中心の超然主義内閣 主要な政党勢力と対立 ※37 **政友本党** を与党

.....1924. 38 政友会から分離 39 床次竹二郎とこなみ

☆40 **第二次護憲運動**...清浦内閣攻撃 政党が中心 普通選挙運動の高まり

スローガン 「41 **普選断行**、42 貴族院・枢密院改革、43 行政整理」



→ 総選挙で大勝 → 清浦内閣総辞職

51 **加藤高明**

1924.6~25.7 52 護憲三派(連立)内閣 ☆53 第1党は憲政会

衆議院の多数党による組閣(27 政党内閣制)...「28 **憲政の常道**」として慣例化 <五・一五事件まで>

(a) 54 **普通選挙法**成立(55 1925)...56 **25歳以上の男子**(被選挙権は30歳) 中選挙区制 納税資格廃止

※最初の普通選挙実施は57 1928年 生活困窮者や植民地は除く

(b) 58 **治安維持法** (59 1925) ※普通選挙法とほぼ同時(6日前)

「60 **国体**」の「61 **私有財産の否定**」を目的とする運動=共産主義・無政府主義を禁止

.....国家形態 当時は天皇制 62 最高で懲役10年

背景 ①普通選挙 ②日ソ国交樹立(1925) → 社会運動の活発化を危惧

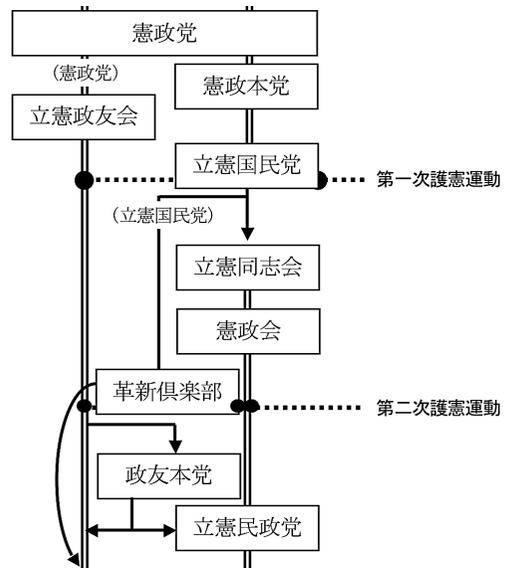
<例> 京都学連事件(1926)...治安維持法の最初の適用事件(団体の運動方針が違反)

(c) 陸軍軍縮(「63 **宇垣軍縮**」)...4個師団の廃止

.....陸軍大臣64 **宇垣一成**

→ 青少年への65 軍事教練を強化 ※兵器の近代化

<例> 青年訓練所(1926)、学校へ将校を配属



【時代順問題に挑戦】<センター試験 2014年A追試験より>

- I ① 第3次桂太郎内閣は、尾崎行雄や犬養毅らに率いられた憲政擁護の運動により、わずか50日あまりで辞職に追い込まれた。
- II ③ 清浦奎吾内閣は、総選挙での護憲三派の圧勝で総辞職し、憲政会の加藤高明が首相となった。
- III ② 原敬内閣は、陸軍・海軍・外務の3大臣を除く大臣を政党员が占めた本格的な政党内閣であった。

政党内閣の成立と展開

1 寺内正毅 内閣 1916.10~18.9 超然内閣

2 諸物価(特に米価)の高騰→庶民の生活難

{ 供給の不足...3 地主・大商人の買い占め・売り惜しみ
←シベリア出兵の軍需も予想
需要の増大...都市人口・労働者人口(非農業人口)の急増 ←資本主義の発達

1918年夏、4 富山県魚津町などで騒動(「5 越中女房一揆」)

→6 _____ ...7 0万人以上 米商人や地主を襲撃 →軍隊でようやく鎮圧 →内閣総辞職

7 _____ 1918.9~21.10 「8 平民宰相」...華族でも藩閥でもない衆議院議員 『原敬日記』

9 初の本格的政党内閣...10 陸相・海相・外相以外はすべて政党(立憲政友会)員

(a) 11 積極政策...公共事業や教育福祉を拡大 財政支出が必要

<例>12 鉄道網の拡張...13 鉄道院を鉄道省へ格上げ(1920)

海軍の軍備拡張...「14 八八艦隊(戦艦8巡洋艦8の建造)」の推進

高等教育拡充...15 大学令(公立・私立大学の認可)、16 高等学校令

(d) 17 選挙法改正(1919)...18 納税資格を3円に(5.5%)

19 小選挙区制の採用(大政党有利)

(c) 社会主義運動や普通選挙運動には否定的

野党の普通選挙案 →拒否、解散総選挙 →政友会の圧勝

(d) その他 21 パリ講和会議(1919)、三・一運動(1919)、22 国際連盟加盟(1920)

恐慌(1920)、東京市疑獄(汚職)事件など

→1921. 暗殺(東京駅)

与党 20 政友会の
党勢拡張

23 _____ 1921.11~22.6 24 立憲政友会

..... 政友会総裁(←原内閣大蔵大臣←日本銀行総裁) 25 ワシントン会議(1921) (→近代29)

26 _____ 1922.6~23.8 官僚・貴族院中心だが、27 政友会が支持

..... 海軍大将(←大隈内閣~高橋内閣の海軍大臣) 28 ワシントン会議の首席全権

軍縮・シベリア撤兵を実施 陪審法(1923) 首相病死で総辞職(1923.8/24)

..... 29 関東大震災(1923.9/1)

30 山本権兵衛(II) 1923.9~23.12 海軍・薩摩

震災翌日(9/2)組閣 →混乱処理(戒厳令、31 支払猶予令など)

1923.12 32 虎ノ門事件...無政府主義者33 難波大助、34 摂政宮裕仁親王(のち昭和天皇)を狙撃

→引責で総辞職

35 _____

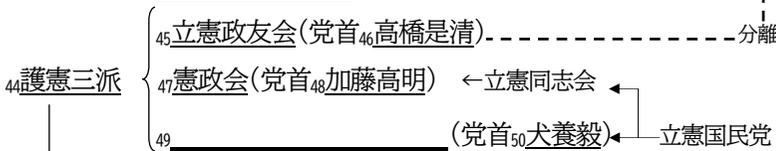
1924. 1~24. 6 官僚(山県有朋系)、枢密院議長

36 貴族院中心の超然主義内閣 主要な政党勢力と対立 ※37 _____ を与党

.....1924. 38 政友会から分離 39 床次竹二郎ら

☆40 第二次護憲運動...清浦内閣攻撃 政党が中心 普通選挙運動の高まり

スローガン 「41 _____、42 貴族院・枢密院改革、43 行政整理」



→ 総選挙で大勝 → 清浦内閣総辞職

51 _____

1924. 6~25. 7 52 護憲三派(連立)内閣 ☆53 第1党は憲政会

衆議院の多数党による組閣(27 政党内閣制)...「28 _____」として慣例化 <五・一五事件まで>

(a) 54 普通選挙法成立(55 1925)...56 25歳以上の男子(被選挙権は30歳) 中選挙区制 納税資格廃止

※最初の普通選挙実施は57 1928年 生活困窮者や植民地は除く

(b) 58 _____ (59 1925) ※普通選挙法とほぼ同時(6日前)

「60 _____ の変革」「61 私有財産の否定」を目的とする運動=共産主義・無政府主義を禁止

.....国家形態 当時は天皇制 62 最高で懲役10年

背景 ①普通選挙 ②日ソ国交樹立(1925) →社会運動の活発化を危惧

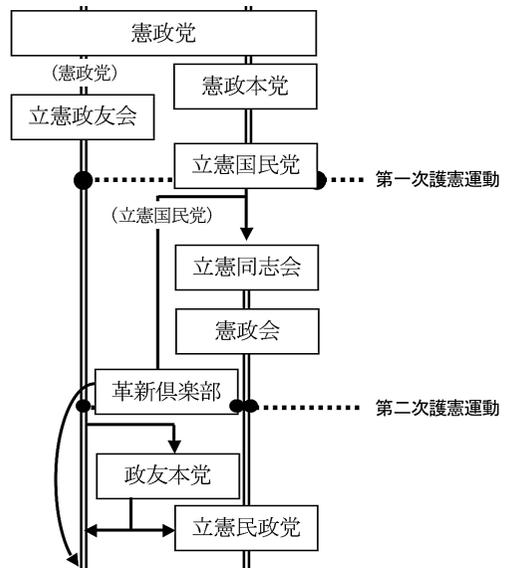
<例> 京都学連事件(1926)...治安維持法の最初の適用事件(団体の運動方針が違反)

(c) 陸軍軍縮(「63 宇垣軍縮」)...4個師団の廃止

.....陸軍大臣64 _____

→青少年への65 軍事教練を強化 ※兵器の近代化

<例> 青年訓練所(1926)、学校へ将校を配属



【時代順問題に挑戦】<センター試験 2014年A追試験より>

- I 第3次桂太郎内閣は、尾崎行雄や犬養毅らに率いられた憲政擁護の運動により、わずか50日あまりで辞職に追い込まれた。
- II 清浦奎吾内閣は、総選挙での護憲三派の圧勝で総辞職し、憲政会の加藤高明が首相となった。
- III 原敬内閣は、陸軍・海軍・外務の3大臣を除く大臣を政党員が占めた本格的な政党内閣であった。